

第1回津山自分ごと化会議 議事メモ

コーディネーター	伊藤 伸
説明担当者（自治体）	財産活用課 定久課長、行財政改革推進室 伊東主幹
日時	令和元年11月2日（土） 13時00分から16時00分
場所	津山市役所 2階大会議室
その他	参加委員数 22 名 市側出席者 市長、総合企画部長、総合企画部・財政部・ 学校教育部・生涯学習部職員

趣旨・概要

- 「自分ごと化会議」の意義と概要の共有
- プール施設の現状と課題の共有
- 参加委員の自己紹介とテーマに関して

総括

コーディネーター

ガラスハウスに関心がある方が多く見られた。今回の会議では全体の施設概要を説明したが、次回までに施設利用の実人数やランニングコストなど可能な限り資料を用意していきたいと考える。次回の第2回ではガラスハウスを軸に議論を進めていきたい。

全体会の流れ

- 「自分ごと化会議」の意義と概要（伊藤コーディネーターより説明）
- プール施設の現状と課題（津山市より説明）
- 質疑
 - 委）ガラスハウスは、平成26年の事業仕分けで「民間等で実施」の方針が打ち出されていたが、それ以降の進展はなかったのか。
 - 市）岡山県から施設譲渡の条件として、10年間は現状のまま運営することとされていたこともあり、譲渡から10年を迎える令和2年度末まで指定管理者制度で施設運営を行うこととした。
 - 委）この会議で取りまとめられた意見の方向へ進んでいくのか。
 - 市）会議で取りまとめられた意見を参考にしながら、ガラスハウスを含めた市営プールの今後の方向性を津山市として決定していくこととなる。
 - 委）資料「プール施設のあり方検討」の中にある「個別施設の評価」の作成にあたり、設定した評価点に根拠はあるのか。
 - 市）評価点については根拠となる明確な基準があるわけではない。市役所内部で検討す

る中での一定の参考を作るために設定したものである。

委) 資料「プール施設のあり方検討」を見る限り、既にプール施設の方向性が決まっているように感じるが、委員の意見がどこまで取り入れられるのか。

市) 現時点で市が検討してきた内容を説明する資料であり、この考え方ありきで進めるものではない。今後の会議の中で委員の皆様の意見を伺ってまいりたい。

コ) 市がこれまで検討してきた考え方を本日の会議で説明するよう私からお願いしたものの。市の意思をあらかじめ示してもらい、ただし、それは参考という位置づけとしてこの会議で一から委員の皆さんと一緒に考えていきたい。

4 自己紹介とテーマに関して一言

参加委員22名による自己紹介。各委員から名前、地域、所属、市営プールの利用、民間プールやスポーツジム、公共施設の利用状況について発表。

5 意見交換

委) 今回、プールの説明を聞き、運営状況を初めて知った。市の財政状況も含め、色々な話が聞きたい。

委) 人口規模から見るとプール利用の実人数は相当少ないのではないかと。施設の廃止ありきだけでなく、どうしたら持続性のある運営ができるか、施設の必要性や受益者負担、費用対効果について考えていきたい。

委) なぜプールを継続する、あるいは廃止するのか、プールの目的を明確にしながら議論していきたい。

委) 学校プールについて、中学校区に一つプールとして相互利用してはどうか。

委) 市営4プールを実際に委員で見に行った方が良いのではないかと。

市) 4施設全てを全員が見るのは難しいと思うので、施設の状況を市でビデオ撮影し、次回の会議で上映する方法で要望にお応えしたい。

コ) スポーツ課の提案を受けて、次回の会議で時間を設けたい。

委) 民間プールの4施設のうち2施設しか知らないのももう少し詳しい情報が欲しい。

委) グラスハウスの料金が低い。料金面をもう少し考えることはできないか。

市) 市の直営施設と異なり、久米プール及びグラスハウスは指定管理者制度を導入しており、指定管理者側で利用料金を設定している。

委) 資料「プール施設のあり方検討」の中にある「市営プールの運営経費」について、利用が増えると経費も増えるようにも見えるのだが。

市) 実績をもとに算定した数値であるが、ご指摘のとおり、利用人数が増えれば、運営の赤字幅も圧縮される。

委) 委員全員で前向きな意見交換をしていきたいので、他自治体の成功事例や失敗事例を用意していただき参考にしたい。

コ) こちらでも用意していきたいと考える。